

福岡県民と医師をつなぎ、あしたの健康へとつなぐ

EGAO
KARA
medical book

vol.30
2026

えがおから 医療ブック



医療のモヤモヤ、伝えてみませんか。
その本音が、よりよい医療のきっかけに

メディペチャ



福岡県医師会
公式SNS等



LINE



YouTube



Facebook



X

地域の中で人々を支える「看護職員」を目指してみませんか？

県内には、看護職員（准看護師・看護師・助産師）を目指すことができる医師会立の看護師等養成所があります。
入学願書受付期間・入学試験日等詳細は各学校にお問合せください。

地域	養成所名	課程	TEL
北九州	北九州小倉看護専門学校	看護師2年課程	093-551-3184
	北九州市戸畑看護専門学校	看護師2年課程	093-881-5641
	遠賀中間医師会立遠賀中央看護助産学校	助産師課程 看護師3年課程	093-203-2333
	豊前築上医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0979-82-0607
福岡	福岡市医師会看護専門学校	看護師3年課程 看護師2年課程	092-852-1530
	筑紫看護高等専修学校	准看護師課程	092-922-5684
筑豊	直方看護専修学校	准看護師課程	0949-22-0512
	飯塚医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0948-22-3559
筑後	久留米医師会看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0942-34-4189 0942-34-4184
	大牟田医師会看護専門学校	准看護師課程	0944-52-7698
	八女筑後看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0943-24-4877 0943-23-6284
	あさくら看護学校	看護師3年課程	0946-22-5510
	柳川山門医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0944-72-8086

県内の医師会立看護師等養成所一覧は
福岡県医師会ホームページよりご覧いただけます。

URL <https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/kango/list.html>



第13回 作文コンクール 作品募集

心のふれあい大賞ーわたしのまわりの医療体験ー

医療従事者と患者さん、その家族との「信頼関係」という医療の原点にスポットをあて、病気になった時に感じたことや介護にまつわる経験、医療従事者とのふれあいなど、医療・介護に関する体験記を募集します。

●応募資格 福岡県内の学校に在籍する児童及び生徒、および一般県民。※医師を除く。

部門	① 一般の部	② 中高生の部	③ 小学生の部
文字数	400字詰め原稿用紙5枚 (2000字)以内	400字詰め原稿用紙5枚 (2000字)以内	400字詰め原稿用紙3枚 (1200字)以内
表彰 (副賞)	最優秀賞 1名 現金10万円	最優秀賞 1名 図書カード5万円分	最優秀賞 1名 図書カード3万円分
	優秀賞 若干名 現金3万円	優秀賞 若干名 図書カード2万円分	優秀賞 若干名 図書カード1万円分
募集期間	令和8年7月1日(水)～9月30日(水)必着		

応募方法・応募上の注意や入賞発表については、
下記福岡県医師会HPをご確認ください。

URL <https://www.fukuoka.med.or.jp/kenmin/event/sakubun.html>



いままでお医者さんに
言えなかったこと、
ここでなら、話せます。

「メディカル」
×
「ペチャクチャ」

「メディペチャ」は、医療（メ
ディカル）について、意見を
交わす（ペチャクチャおしゃ
べりする）という意味から生
まれた言葉です。医師と患
者が本音で語り合い、少しず
つでも分かり合えたら、医療
はもっと良くなる。そんな願
いから誕生しました。

なんのための
制度？

メディペチャは、福岡県民
の生の声に耳を傾け、**患者
本位の医療につなげる**取り
組みです。双方向の対話を
通じてお互いの理解を深め
ながら、医師会をより身近
で開かれた存在にしてい
くことを目指しています。

開催方法は？

年に1度、全3回の会合で
実施しています。会場は福岡
市内の会議室や医師会館。
福岡県内から選ばれた**約10名
のモニター**と、医師会の担当
者などが参加し、少人数で
じっくりと対話を重ねてい
きます。

医療のモヤモヤ、伝えてみませんか。その本音が、よりよい医療のきっかけに

メディペチャ



医師会と県民が本音で向き合う、ちょっと珍しい
取り組みがあるのをご存じですか。「病院の待ち時間
が長い」「どの科に行けばいいか悩んだことがある」…
そんな日常の小さな疑問や不満。診察室ではなかな
か言えなかった本音や、ふと抱いた違和感も含めて、
率直に話せる場所があります。それが、医療モニター
制度「メディペチャ」です。福岡県医師会では、県民の
「生の声」を直接聴く場を設けています。

どれくらい
続いているの？

平成15年に全国に先駆けてスタート
したメディペチャは、令和8年度で
第21期を迎えます。これまでに延べ
656名が参加し、県民の声を医療
につなげる取り組みとして、着実に
歩みを重ねています。

どんな人が
参加しているの？

メディペチャに参加するのは、主婦
や会社員、学生など、医療従事者では
ない**18歳以上の福岡県民**です。特別
な**専門知識は必要なく**、日常の中で
感じた率直な思いや疑問を、そのまま
伝えることができます。

医師はまず、聞き役として 耳を傾けます。

第1回の集まりでは、まずモニターみなさんが医療や医師会について、日頃感じていることを率直に話してもらいます。自由に遠慮なく発言していただくため、医師は口を挟まないのがルールです。安心して本音を話せるよう、場づくりも大切にしています。

Aさん

診察時に医師と十分にコミュニケーションが取れず、不安。もっと患者の目を見て丁寧に説明してほしい。

回答

Bさん

セカンドオピニオンを受けたいと思っても、どのタイミングで言い出せばいいのか分からないし、医師には伝えにくい…。

回答

Cさん

体調不良で受診しても、別の科を紹介されて再検査になるなど、通院が増えて負担。結果的にいくつも医療機関を回ることになって大変だった。

回答

Dさん

比較的大きな病院でも、待合室では多くの人が長時間待たされ、つらそう。受付順ではなく、症状に応じて優先して診てもらえないの？

回答

モヤモヤが納得に変わる。 医師からの「本音の回答」

第2回では、第1回で出された声をもとに、医師がひとつのテーマと向き合います。医師会の考え方や医療現場の背景も伝えながら、モニターと意見を交わし、聞く場から一歩進んだ、本音の対話へと深めていきます。

医師とのコミュニケーションについて

医療では、診断や治療だけでなくコミュニケーションも大切です。治療方針には複数の選択肢があることも多く、納得していただけるよう丁寧な説明が求められます。状況によっては十分な時間をかけられない場合もありますが、不安や疑問があれば遠慮なく伝えてください。もちろん、医師側の雰囲気づくりも大事です。そうしたやり取りが、安心して受診できる関係づくりにつながります。

セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンは、現在の治療への理解を深めたり、ほかの選択肢を知るための大切な機会です。特別なことではなく、患者さんの権利の一つですので、遠慮する必要はありません。「別の意見も参考にしたい」と率直に伝えて大丈夫です。納得して治療を選ぶための手段として、安心して活用していただければと思います。

診療科・病院選びについて

近年は医療の専門分化が進み、診療科ごとに役割が分かれています。別の科を紹介されることもあります。それもより適切な診療につながるための流れです。日頃から相談できる「かかりつけ医」を持つておけば、適切な医療機関の紹介を受けやすくなりますし、病院検索サイトや電話相談窓口を活用することも一つの方法です。

待ち時間の長さについて

救急の現場では、受付順ではなく、症状の重さに応じて優先順位を決める「トリアージ」という仕組みが取られています。一方で、患者さんが特定の病院に集中し、待ち時間が長くなることも課題となっており、医師会や行政も改善に取り組んでいます。救急医療を守るためには、電話相談の活用や適切な受診の判断など、一人ひとりの理解と協力も大切です。

迷ったときの 相談先・医療情報

医療情報ネット(ナビイ)

地域や診療科から医療機関を検索でき、診療時間や特徴なども確認できます。



医療情報ネット(ナビイ)

医療よろず相談電話

健康・医療に関するご相談などについて、直接医師と話ができます。

【電話番号】092-475-3093

【受付時間】木曜日 17:00~19:00
(第3木曜除く)

※診療等の都合により、時間が変更または中止になる場合もあります。

相談ダイヤル

#7119 救急医療電話相談

救急医療機関での経験のある看護師が、救急車の利用や最寄りの医療機関についてアドバイスします。

【受付時間】24時間365日(年中無休)

※つながらない場合は092-471-0099へおかけください。

#8000 小児救急医療電話相談

子どもの急な病気やけがに関する相談に対し、適切な対処の仕方や医療機関などについてアドバイスを行います。

【受付時間】平日 19:00~翌朝 7:00
土曜 12:00~翌朝 7:00
日祝 7:00~翌朝 7:00

メディペチャに参加した モニターたちのリアルな声

病院に頼りすぎないためにも、まずは健康づくりが大切だと実感。日頃から自分でできることに取り組もうという意識が高まりました。(男性・52歳)

医師も同じ人として向き合える存在だと感じました。これまでの堅い印象が大きく変わり、とても身近に感じられるようになりました。(女性・64歳)

一方的に聞くだけでなく、しっかり医師と対話することでも必要ですね。自分から積極的に話すことの大切さも学びました。(女性・27歳)

日本の医療制度の恵まれた環境を改めて実感しました。この仕組みを守るために、自分自身の意識も大切だと感じます。(女性・47歳)

ほかの参加者の意見を聞いたことがとても参考になりました。自分の通院先についても見直す、良いきっかけになりました。(女性・65歳)

日常のことも気軽に話せる関係こそが「かかりつけ医」だと感じました。信頼関係を築けるよう、安心して相談していきたいです。(男性・58歳)

医療現場の忙しさや人手不足の現状を知り、驚きました。医療を支えるために、私たちも考えていく必要がありますね。(男性・69歳)

医師会がLINEなどで役立つ情報を発信していることを初めて知りました。こうした取り組みを、周囲にも伝えていきたいです。(女性・66歳)

自分の意見が医療に届く可能性を感じられたことが印象的でした。メディペチャに参加することの意義を実感できてよかったです。(女性・38歳)

第21期モニター募集中！ 応募締切 7月末日 必着

福岡県医師会の医療モニター制度

メディペチャ

開催スケジュール	第1回 会合	令和8年9月26日(土) 15:00~17:00	JR博多シティ 会議室
	第2回 会合	令和8年10月17日(土) 15:00~17:00	
	第3回 会合	令和8年11月21日(土) 15:00~18:00	福岡県 医師会館

応募方法

下記の必要事項を記載の上、WebフォームまたはFAX・e-mail・ハガキでご応募下さい。

- ① 氏名(ふりがな)、性別、職業、年齢、住所、電話番号
- ② 医療モニター制度を何でお知りになりましたか。
- ③ 医療全般や医師会に対して感じていること(200字程度)

※選考結果は郵送をもってかえさせていただきます。

お問い合わせ

福岡県医師会総務・経理課まで TEL 092-431-4564

感染症の流行状況によっては、開催を中止・延期する可能性があります。

募集人数 10名程度

応募資格

- ① 福岡県内に居住されている18歳以上の方
※男女問わず ※医療従事者は除く
- ② 左記、全3回の会合すべてに出席可能な方
(欠席不可)

謝 礼

15,000円 1回5,000円 ※交通費含む×3回

応募 Webフォーム



応募用紙は福岡県医師会ホームページからもダウンロードできます。



<https://www.fukuoka.med.or.jp/>

F A X 092-411-6858

e-mail medi-pecha@fukuoka.med.or.jp

ハガキ 〒812-8551 福岡市博多区博多駅南2-9-30
福岡県医師会館4F
福岡県医師会総務・経理課「医療モニター」係

第3回会合

対話から、 つながりへ。

第1回・第2回を振り返りながら行われる最終回は、普段なかなか訪れる機会のない医師会館での開催となります。互いの立場や考え方への理解が深まり、より前向きな対話へと変わっていきます。



モニター参加者へは感謝状が贈られます。

医師の働き方について

モニター：お医者さんだからといって、長時間勤務が続くような働き方は良くないと思います。なり手が減り、将来、必要ときに医療が受けられなくなるのではないかと不安です。

医師：医療現場は慢性的な人手不足に加え、救急対応などで長時間勤務になりやすい状況があります。現在は医師の健康を守るための「働き方改革」が進められていますが、その一方で救急現場のマンパワー不足など、新たな課題も生まれています。

モニター：若手医師が過酷な現場を避けて、働きやすい分野に流れているという話も聞きます。このままでは、地域によって医療の差が広がってしまうのではないのでしょうか。

医師：おっしゃる通り、診療科や地域によって医師の偏りが生じているのが現状です。医師がやりがいを持って無理なく働ける環境づくりと医療機関同士の連携や役割分担、そして適切な受診への患者さんの理解と協力も大切になってきます。

モニター：現場が大変な状況だと分かると、受診の仕方についても少し考えないといけないと感じますね。

よりよい医療について

モニター：病院によって対応に差があるように感じることがあります。また、自分に合う「かかりつけ医」を見つけるのは難しいと感じていましたが、今回その重要性がよく分かりました。

医師：医療機関ごとに役割や体制が異なるため、違いを感じることもあるかと思いますが、その中で「かかりつけ医」は、患者さんの状態を継続的に把握し、必要に応じて専門医へつなぐ役割を担う大切な存在です。

モニター：マイナナンバーカードなどを活用して、病歴や薬の情報が共有されれば、どの医療機関でもスムーズに診てもらえて安心できるのではないかと思います。

医師：医療のデータ化や電子カルテの活用は、診断の質を高めるだけでなく、重複検査や不要な投薬を防ぐことにもつながりますね。

モニター：今回、医師の方と直接話して、医療がとても身近に感じられました。こうした対話の場がもっと増えればいいと思います。

医師：ありがとうございます。医師会では地域医療を支えるさまざまな活動を行っていますが、こうした対話を通じて、より親しみを感じていただければうれしいです。